

何を今さら物見遊山で

「震災前にはいちばん賑やかな所だったんですよ～、この辺りは」。コンクリートの家の基礎だけが淡いグレー色に続く風景に、若いバスガイドさんはこうコメントし、一言付けたした。「…でも、わかりませんよね」

10月13日、14日の2日間、校友会企画の東日本大震災復興ツアー岩手県コースに参加した。参加を思い立ったのは、①現在の被災地の様子、②自分にできることは何か、③現場に立って示唆的なものを感じられないか。以下この動機順に感じたことを。

①復興には相当に時間がかかるだろう。それにしても仮設住宅で2度目の冬を過ごすのは気の毒。②難しく考えずに、特産品購入など身近なことから。③凡人の想像力ではガイドさんの一言が象徴するように、本当には分からないことだらけだ。「分からない」を前提にすれば、紋切り型なイメージの「支援」より「お手伝い」という言い方が相応しい。だからこれからも私にできるお手伝いをさせてもらいたいと思っている。

(80年文学部卒業井上智子)